

インターン報告書

1、インターンのきっかけ

- ・川上村の観光政策を詳しく学びたい。←他の南部地域に影響を与えられないか？
- ・奈良県南部の現状を知りたい。

2 インターンの日程（概要）

8/3（金）	到着、概要説明	10（金）	水源地の森探索
4（土）	遊水フェスタ	11（土）	休息日（報告会準備）
5（日）	人足、もくもく館	12（日）	陶芸体験@匠の聚
6（月）	森と水の源流館	13（月）	やまぶきバスで村内探索
7（火）	匠の聚、川上さぶり	14（火）	大滝ダム見学
8（水）	下多古村有林探索	15（水）	東の川盆踊り
9（木）	樽丸作り見学	16（木）	報告会準備、上谷、瀬戸訪問
17（金）	報告会、帰省		

3、奈良県南部の現状

- ・人口流出に高齢化問題が負い打ちし、過疎化が深刻。
財政難。
→深刻な問題がたくさんある。

4、川上村の観光政策

特色：奈良県南部、和歌山を横断し、はては和歌山の海まで流れる「吉野川」（紀の川）の「水源地のむら」としてその環境の良さを前面に出した、自然観光を主とする。
→観光客もレジャーを楽しむ目的の人が多い。大阪などの近隣府県の都市部の人が多い。

～私が体験したイベント、観光スポット～

・遊水フェスタ

→近年新たに開催された川上村の新イベント。蜻蛉の滝の駐車広場で川上の特産品を屋台で販売したり、川を地元の人が案内しつつ探索するミニイベントなど川上村の「一押し」が一度に味わえる。

あいにくの雨降りの中、川遊び客をメインになかなかの盛況だった。

・東の川地区盆踊り

→毎年恒例の地区のお祭り。近年は匠の聚でおこなわれていたが、今年は伝統の神社前で行われた。若い人から高齢の方まで、一丸となって昔からのリズムに乗って踊りを踊るという伝統が変わらず続いていくのを肌で感じたお祭りだった。

<スポット>

・源流の森

→三之公のトガサワラのある原生林。はては和歌山まで続く吉野川の水源地で村で買い取り、「水源地の村」のシンボルとして、定期的に観光客を案内するイベントもある。トガサワラだけでなく、さまざまな生き物が多く暮らす、豊かなところである。

・森と水の源流館

→源流の森を管理している施設。ただ管理しているだけでなく、源流の森の生き物を展示したり、伝統の林業の展示もしており、「森と水と人との共生」を分かりやすく説明する役割も担っている。

体験型の展示が多く、おもしろかった。またシアターの臨場感もすごかった。

・匠の聚

→各地のアーティストを住まわせ、創作活動に専念してもらいその作品を展示したり、グッズとして販売したりしている。また創作体験として、とんぼ玉作りと、陶芸を体験できる。また喫茶スペースでおいしい食事もいただけるので昼食を兼ねて展示を見ることがもできる。

・もくもく館

→吉野杉について詳しく展示したり、林業の道具を展示したりと川上村伝統の林業を詳しく知ることができる施設。施設も木でできており、不思議と落ち着く。

・川上さぷり

→川上村で採れた木材を加工して売り出す、林業の新しい取り組みを行うセンター。林業の今について詳しく話を伺った。

・大滝ダム

→災害用として作られたダム。中を観光できるイベントが行われていたので参加させてもらった。普段知ることのできないダムの中やダムの作りを丁寧に案内してもらえる、貴重な体験だった。また、洪水の恐ろしさを知ってもらう目的の展示物や、豪雨体験などもある。

5、現在の川上村における問題点

私が感じた問題点としては3つある。

- ①知名度が低い
- ②観光スポットが離れすぎている
- ③住民主導のイベントが少ない

6、詳細

・①について

→交通の便が悪いために気軽に來ることができない。単に知られていない。

解決策：1、恒例のイベントなど來客が望めるもののために上市駅からの特別な送迎バスややまぶきバスの運行を増やしてみるなど、自家用車では来づらい外からの観光客が来やすいようにしてみる。

2、村内のイベントだけでなく、各地でもPRをしてみる。その際、ただ都市などで広くPRするのではなく、村の特色を理解してくれそうな人々に向けてイベントをしていくとより効率的であるかもしれない。

例) 吉野杉を家具や家を購入する消費者に直接アピールできるイベントを開催してみる。

…質にこだわる客は多い。工務店等はどうしてもコストを考えがちだが、消費者は「良質、安全」のためなら多少の費用を払っても惜しくないと思っているはず。さらに近年の木材価格の下落について説明すれば、消費者の中で「国産木は高い」というイメージを打破できるきっかけにもなるかも知れない。

・②について

→一日の間でまわれる場所が限られてくる。＝日帰り客の場合、魅力を味わいきれずに帰ってしまうかもしれない。

…しかし考えを変えれば、川上村の魅力は一度来ただけでは味わいきれない、と考えることもできる。

解決策：各スポットや物品の「一押し」をパンフレットなどで一目見ただけでわかるようにする。

…訪れた人に「今回はここはいけなかったけど、なんか面白そうだから、ここを見にもう一度来てみようかな」と思ってもらえれば、リピート客になってくれる。

・③について

→現在の地域振興計画は役場が主体となっていて行われているために、住民が地域振興の恩恵やそれによって村がどのように変化しているかに疎くなっている。

解決策：住民のアイデアを地域振興の中に取り入れるような機会をつくる。

…住民の新たな仕事を生み出せるきっかけになるし、自立にもつながると思います。村全体の経済の活性化にも貢献すると思われる。

すでに上記の提案に近い内容の企画である、＜地域活動（環境クラブ活動）促進プロジェクト＞という試みが役場で始まっている。まだ始まったばかりということであるが、住民とともに発展する川上村となるように積極的に行ってほしいと思う。

7、南部振興に関する提案

奈良県南部が一つになった地域振興を行っていくべき。

…同じような多くの課題を抱える南部の各地域が、その共通の問題に一丸となって取り組んでいけば、今よりは必ず解決に近付くことができる。

・企画提案：「奈良県南部温泉ツアー」

奈良県南部は温泉がいたるところにある。ただ、各市町村に点在しているため、従来のツアーでは、ほぼ各市町村単位での温泉地しか回れない。

→そこで南部のあちこちにある温泉地のいくつかを選んで、回ってもらい、ただ温泉だけでなく各地域の名所や特産物も楽しんでもらうという、ツアーひとつで南部のあらゆる面の良さを知ってもらおうという目的の企画。

さらにさまざまな体験をしていくなかでツアー客のそれぞれが気に入った部分があれば、またそれを体験したいと思ったり、あるいはツアーの中では体験しきれなかったものを改めて満喫しようという思いで各市町村を訪れる。リピート客が期待できるうえに、楽しい思い出をあちこちの場で語ってもらうことで口コミも広がるはず。

ただし、これらの効果を得るにはいくつかの課題もある。

課題 1：全ての質は最高に！

→ツアー客の多くはおそらく南部地域をまだ知らない人である。その人たちに少しでも嫌な思いをされてしまうと、南部全体が「嫌な所」にもなりかねない。そこで施設の食事やサービスの質は常に気持ちの良いものでなくてはならないと思う。

…各施設の質を管理する方法の一つとして、定期的に訪れたお客さまにアンケートを取るのもいいと思う。

単に直すべき点を見つけることができるだけでなく、お客様がいいと思っている面も知ることができ、観光事業の面で何を求められているかもわかる。

課題 2：アットホームな接客を心掛ける。

→上の課題でサービスの質を最高にと述べたが、事務的な丁寧さではなく、方言のある身近な話し方で家族のように接客することも必要である。

…遠いところからやってきた人にとっては、ちょっとした人とのふれあいを体験するだけで、そこが思い出の地になるかもしれない。

さらに南部は田舎なので、人とのふれあいがあれば都市部からやってきた人にとって、もう一つのふるさととして、便利じゃないけど心安らぐところになると思う。

8、このインターンの感想

私は公務員を目指しており、その勉強の一つとして、また自分が暮らす奈良県南部をよく知るためにここ川上村にインターンすることに決めました。

長いようで短い2週間の間に様々な人と出会い、その人たちから、時には助言として、時には苦言として川上の今、そしてこれからを教えていただきました。皆さんが私の先生でした。ですが、とくに高齢の方たちは伝統の林業がうまくいかず、そして過疎化していく村にすっかり絶望していました。しかし過疎化していく地域に生まれた私としては、早々とあきらめてほしくない、まだ若い私たちはここ南部をあきらめていない。だからあなたたちもあきらめないで、一緒に頑張っていってほしい。そういつも感じていました。今までのやり方がうまくいかなくなって新しいものが切実に必要とされる今こそ、みんなで力を合わせないとそんなものは生まれないと思います。でもその実私もこのインターンに参加するまでここまで考えなかったと思います。私にとってとてもいい勉強になった濃い2週間でした。

改めて水源地の村づくり課をはじめとする役場の皆さん、住民の皆様には感謝します。ありがとうございました。